

ナカポツセンターから就労定着支援事業所へスムーズに移行したケース

| 圏域            | 君津  |         | センター名    |     | エール            |   |
|---------------|---|---------|----------|-----|----------------|---|
| 氏名            | S・K   |         | 居住形態     |     | 家族同居 GH 単身 その他 |   |
| 手帳種別及び等級      | 療育手帳 B-2  |         | 年齢       | 22歳 | 性別             | 女 |
| 成育歴および現在の生活状況 | <p>両親と姉の4人家族。姉はアメリカに留学中で現在は3人暮らし。父が会社を経営しており、厳格な家庭のもと育つ。家族関係は悪くはない。S・Kは普通高校、専門学校を卒業するが、就職が上手くいかなかったため、障害者手帳を取得し、市役所から紹介された就労移行支援事業所であるA事業所に通所し始める。</p> <p>両親共に、療育手帳を取得してからもしくはらばらくは障害受容ができていなかったが、現在はS・Kの障害を受容している。</p> |         |          |     |                |   |
| 就業前の訓練事業所     | A事業所  | サービスの種類 | 就労移行支援事業 | 期間  | 2年             |   |
| 就職先           | C社  |         |          | 入社日 | H31.2.1        |   |
| 業務内容          | 文書配布、印刷、封入、パソコンデータの入力等  |         |          |     |                |   |
| 就業先企業情報       | <p>業種：複合サービス業<br/>従業員数：200名程度<br/>障害者雇用歴：あり。現在、知的、精神障害者が働いており、ナカポツセンターとの関係は密である。<br/>その他：障害に対する専門的な知識は乏しいものの、課の中でサポート体制はしっかりしている。</p>   |         |          |     |                |   |
| 就業前の課題        | 就業経験が浅く、最初は人間関係を上手く築けず、緊張してしまう。また感情のコントロールがうまくできず、すぐに泣いてしまう。  |         |          |     |                |   |
| 就労定着支援個別支援計画  | -   |         |          |     |                |   |
| 課題解消に向けた支援体制  |   |         |          |     |                |   |

|                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| <p>障害者就業・生活支援センターと就労定着支援事業所間の連携経過</p> | <p>C社に就職するまで、A事業所とナカポツセンターが協働し就労支援をしてきた。就職してから、S・Kは支援機関に支援して欲しいという思いはあったものの、必ずしもナカポツセンターでなければいけないという思いではなかった。しかし、C社からの希望もあり、企業と関係が取れているナカポツセンターが中心に定着支援に入っている。</p> <p>S・Kが就職して半年経った頃、C社から「ナカポツセンターは多忙だろうから、今後の支援機関との関係を広げるためにも、就労定着支援事業所に入ってもらってもいい」と話がある。S・Kも了解したため、A事業所と同法人が運営している就労定着支援事業にナカポツセンターから引継ぎを行い、定着支援が行われるようになった。</p>   |
| <p>具体的支援経過</p>                        | <p>H30.10.26 ナカポツセンターから、C社が障害者雇用を希望している旨を情報提供したところ、A事業所から働きたい方がいると相談がある。</p> <p>H30.11.7 S・KとA事業所がナカポツセンター来所、登録。</p> <p>H30.11.20 S・Kがアセスメントのためナカポツセンター来所。</p> <p>H30.12.12 職場見学、実習の打合せ。</p> <p>H30.12.17 職場実習。</p> <p>12.21</p> <p>H31.2.1 就業開始。</p> <p>R1.6.1 S・Kに就労定着支援事業を利用するかの希望を伺い、了解されたため、ナカポツセンターからA事業所に引き継いだ。</p> <p>R1.8.1 就労定着支援事業の開始。</p> <p>現在 ナカポツセンターも別の就労者の定着訪問支援時に、S・Kの様子伺いをしている。</p> |
| <p>現在の状況及び支援効果</p>                    | <p>S・Kを就職に繋げる時点で、A事業所と密に連携しており、スムーズに引継ぎが出来た。また、A事業所に引き継いだからはC社に対して、3年間はその事業所で支援していただくことを説明するとともに、明確に役割分担をしたことで、企業には「どのような時に、どの支援機関と連携するべきか」ということを理解して頂けた。</p>  |

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| <p>障害者就業・生活支援センター側からの支援・連携上の課題</p> | <p>就労定着支援事業の存在が企業に浸透していないこともあり、以前からナカポツセンターと関わりのある企業からは、窓口を一本化してほしいと話を頂くことがあった為、丁寧な説明が必要である。</p> <p>圏域内では就労定着支援事業所が少なく、実際に連携して動いたケースの実績が少ない。</p> <p>支援機関への引継ぐタイミングについて、遅くとも3か月前くらいからナカポツセンターと事業所間での連携、情報共有が必要である。</p>   |
| <p>就労定着支援事業所からの要望・意見</p>           | <p>企業に複数人雇用者がいる場合、障害福祉サービスを受けた方は就労定着支援を受けている。一方、特別支援学校を卒業後すぐに就職した方は学校やナカポツセンターの支援を受けることになっている。それぞれの立ち位置の違いだと思うが、違和感を感じる。企業も感じているのではないか。</p> <p>事業所からの引継ぎについて、ナカポツセンターとしての支援や役割等事業との違いがあり、引き継ぐタイミングが難しい。</p> <p>事業所は支援終了後もしばらく関わる必要がある。スムーズに引き継ぎが行くよう事業所からも引継ぎ始めるタイミングを提案していきたい。</p> |